

Emidio Maero

エミディオ マエロ

コッリーネ・サルツェージ・ペラヴェルガは、1500年代に教皇ジュリオⅡを魅了し、教皇の食卓に必ず供されたことで有名であったが、その後、時と共に忘れられた品種となっていた。

エミディオ・マエロのカンティーナは1999年に設立されたが、その歴史は古くからのこの土地の伝統に深く結び付いている。

ブロンデッロはコッリーネ・サルツェージの中心に位置する小さな村だが、1981年、その村の唯一のトラットリアが閉店することになった。エミディオの父、レミジオ・マエロは閉店に強く反対し、実業家としての職業を捨て、妻と共に店を続けることを決意した。

コッリーネ・サルツェージ・ペラヴェルガは、当初レミジオの店のハウス・ワインとしてのみ使われていたが、その後高い評価を得るようになる。

マエロ・ファミリーは、丘陵地の最も日当たりのよい粘土質の土地を選び耕作し、他に類をみない素晴らしいペラヴェルガを作ることに成功し、遂にDOCを得る。

時が経ち、子供たちが両親と仕事を共にするようになる。イヴァーノはレストランを担当し、エミディオが熱意をもってワイン造りを手掛けている。

彼は最良の土壌で実った、最上のブドウのみを使い、常に品質の向上を目指している。